平塚の石仏がぐり

8、平塚新宿·馬入鎬



立野町 晴雲寺 青面金剛庚申塔

平塚新宿・馬入の石仏

新宿は旧平塚新宿のことで、近世初期に八幡村から分かれ た頃は八幡新宿村と称していました。慶安4年(1651)に 平塚宿に加宿、明暦元年(1655)に平塚新宿と改称しました。 天保 12 年刊『新編相模國風土記稿』による平塚新宿の戸数 は 119 戸で、東海道、厚木道、大山・曽屋道が通っていました。 明治 22 年に平塚宿と合併して平塚町、昭和 4 年に須馬村と 合併、同7年に平塚市の一部となりました。浅間町に鎮座 する平塚八幡宮は新宿、馬入、八幡の鎮守で、昭和53年以 前は八幡神社と称していました。8月15日の例大祭で神輿 を担ぐ他、5月5日の国府祭では大磯町国府本郷へ出御しま す。寺院は立野町に晴雲寺(浄土宗)と光円寺(真言宗)が あり、青面金剛像と三猿の組合せの初見となる庚申塔をはじ め晴雲寺の石仏が見どころです。

相模川の沿岸に位置する馬入は、東海道に沿って集落が形 成され、『新編相模國風土記稿』による馬入村の戸数は 129 戸でした。明治22年に須賀村と合併して須馬村、昭和2年 に町制施行、同4年に平塚町と合併しました。平塚八幡宮 を大鎮守、中堂に鎮座ずる神明神社を小鎮守と称し、4月第 二日曜日の神明神社例祭では、明治4年に制作された屋台 の上で祇園ばやしが奏されます。寺院は榎木町の蓮光寺(真 言宗)と馬入本町の真福寺(浄土真宗)があり、蓮光寺の抱 き地蔵は石占の伝承を持つ珍しい地蔵です。







平塚新宿・馬入の石仏所在地と主な石仏

番号	名 称	住 所	主 な 石 仏
1	山神社	宝町 9-21	記念碑、手水石
2	大光不動堂	宮の前 4-28	由緒碑
3	宮松町路傍	宮松町 6	馬頭観音
4	平塚八幡宮	浅間町 1-16	狛犬、馬頭観音、道祖神、水神金神、浅間大神、天照皇大神他
5	豊川寺	明石町 16-21	由緒碑
6	大塔面稲荷社	明石町 14-6 西	手水石
7	恵比寿神社	明石町 23-20	由緒碑、道祖神
8	晴雲寺	立野町 6-5	庚申塔、地蔵念仏供養塔、名号塔、観音、地蔵
9	光円寺	立野町 8-25	標石、宝篋印塔、地蔵、六地蔵
10	神明神社	中堂 13-3	地蔵、道祖神、狛犬、手水石
11	榎木町路傍	榎木町 2-13 北	稲荷
12	蓮光寺墓地	榎木町 5-4 北	供養塔、動物供養塔、名号塔
13	蓮光寺	榎木町 9-9	地蔵、六地蔵
14	真福寺墓地	馬入本町 9	阿弥陀如来供養塔
15	真福寺墓地	馬入本町 9	馬頭観音、動物供養塔
16	真福寺	馬入本町 14-10	史跡碑、手水石
17	馬入本町路傍	馬入本町 15-15 前	記念碑

※ 当ガイドマップに記載されている石仏の基数は平成 26 年集計時点のものです。

石仏めぐりを行う場合の心掛け

石仏は、古来より多くの人々がさまざ まな願いをこめて手を合わせ祈ってきた ものです。今でも信仰の対象とされてい るものも数多くありますので、見学に当 たっては、敬いの心を持って接しましょ

また、お寺や神社など石仏の管理者が いらっしゃる場合は、石仏を見学する旨 一声かけてから見学しましょう。

平塚の石仏めぐり(8.平塚新宿・馬入編)

発行日:令和3年6月 集:石仏を調べる会 行:平塚市博物館

住 所:神奈川県平塚市浅間町 12-41

話:0463-33-5111

平塚八幡宮の石仏

(地図番号(4))

平塚八幡宮は八幡、新宿、馬入の鎮守で、国府祭では古式 豊かな神事に集う古社の一つです。

『吾妻鑑』には源頼朝が北条政子の安産祈願のため神馬を 奉納し誦経を執り行ったとあります。

道 祖 神 境内西側の石造物が数基 並べられた中央に自然石の碑があり、 草書体で大きく「道祖神」と彫られ ています。

裏面に「昭和六年 (1931) 九月再建」 とあります。古くは八幡宮の東側の 道をはさんだ「山」の上にありまし たが、道路建設にともなって山が崩 され、境内の駐車場脇に移り、更に 現在地に移ったものです。新宿地区 のセエト場として1月14日にドンド焼が行われています。



道祖神(昭和6年)

浅間大神 道祖神の右隣に、高さ1m弱の石祠が並んでい ます。

台石正面には富士山が浮彫されていましたが、残念ながら 劣化が進み、現在はかすかな跡形しか見えません。

石祠裏面には、劣化のため読みに くいですが「奉再建浅間社一宇 嘉永 元申(1848) 八月吉日 鶴峯山等覚院玉 応」と彫られていたようで、かなり 古くから祀られていたようです。

昔は八幡宮から西の豊原町付近ま では小高い丘で松林が続いており、現 崇善小学校の敷地内にあった浅間山 に、この浅間社は祀られていました。

八幡宮が鎮座する浅間町は浅間社 を祀ってあったことに由来します。



浅間大神(嘉永元年)

晴雲寺の石仏(1)

松風山光照院と称し浄土宗の寺院で、天正 18 年に晴雲 上人により創建され、本尊は阿弥陀如来です。相模新西国 三十三観音霊場 15 番札所でもあり、元々は平塚駅前にあり ましたが戦災で焼失し、立野町6丁目に移転しました。

庚 申 塔

寺門を入り右手石仏群の中にあります。延宝6年(1678) 銘で高さ 125cm の舟形庚申塔です。一面四臂の穏やかな表

情の青面金剛立像です。銘文は頂部 に、の梵字、「延宝六戊午天」「月吉 祥日」、台座に15名の名が刻まれて います。頭上にドクロを頂き、左右 には日月輪。四臂は上下 45 度の角度 で、上部は三叉鉾、宝輪、下部は宝棒、 羂索を握ります。像の左右に二童子、 足下に二鶏、最下部に三猿がいます。 「青面金剛、三猿、二鶏」の構成は平

塚では初出のものです。



庚申塔(延宝6年)

晴雲寺の石仏(2)

百万遍供養塔

同右手石仏群の中央にありま す。角柱状の塔上部に地蔵坐像 を戴いた形で、寛政8年(1796) 銘で高さ 230cm の大型の百万 遍念仏供養塔です。自身の往生、 故人への追善などを目的として 「南無阿弥陀仏」を百万回唱えた 供養に建てられた石仏で、これ により百万遍念仏が行われてい たことがわかります。



百万遍供養塔 (寛政8年)

名号塔

同右手石仏群の中にあります。 承応3年(1654)銘で高さ100cm の板碑型名号塔です。

銘文には「南無阿弥陀佛□蓮社 稱□宗徳和尚」とあります。残念 ながら2文字判読不明です。「蓮 社」の文字が彫られていますが浄 土宗の法号にあたる蓮社号です。 分類としては板碑型名号塔という ことで、平塚新宿の中で最も古い 名号塔です。しかし銘文から墓塔 の可能性もあります。



名号塔(承応3年)

阿弥陀如来

墓地の中央に「倶会一処」と彫 られた碑があります。極楽浄土で は如来や菩薩と一緒にすごすこと ができるという意味です。その後 ろに16基の石仏が一列に並んで います。中央にある観音像の左か ら二番目が阿弥陀如来像です。

舟型光背を背にした阿弥陀如来 坐像で、両手を腹部前で合わせ 各々二本の指で輪を作る弥陀定印 をとった高さ 84cmの像です。

光背の上部に勢至菩薩を表す 「モ」の種子が判読できます。光



背の上部右角が欠けているため他の梵字は判りませんが、お そらく阿弥陀三尊を表す「ゑ゙ヸ゙ヸ゙」であろうかと思われま

銘文に「逆修為」とあることから生前供養の目的で建てら れたと思われます。造立は延宝3年(1676)で上吉沢山の神 青年会館脇の阿弥陀如来より1年遅く建てられ平塚市で三番 目に古い阿弥陀如来の石像です。

神明神社の石仏

馬入の鎮守で、寛永13年4月3日の勧請と伝えられ、区 画整理などで昭和44年に八千代町から中堂に遷されました。

道 祖 神 元は村の東(シ モ) 西 (カミ・ナカ) に祀 られていた二基が同じ祠に 並んで鎮座しています。

いずれも文字碑で、向 かって左のシモの道祖神は 蓮光寺から八幡へ通じる道 の十手の上に祀られていま



道祖神(左文化4年、右明治2年)

した。カミ・ナカの道祖神は、大正の頃には現在の老松町・ 八千代町歩道橋の北側にあり、昭和30年代に日本たばこ産 業付近に遷されましたが、神明神社移転とともに現在地に遷 されました。双方とも近くに人家がなく馬入村の入り口と思 われる辺りにありました。

手 水 石 小さな手水石で すが、不老不死や瑞祥を告 げる動物として崇められて いる亀が立体的に彫られて います。



手水石(年代不詳)

をかけ水面から這い上がろうとしている亀、右側面にはこれ から水中に向かおうとしている、若さ溢れる亀です。

地蔵は櫛型の塔に浮き彫りされた もので、文化 10年 (1813)11 月吉日 の銘を持っています。

近年まで毎年8月24日に、この地 蔵尊の前で10人ほどの女性が地蔵盆 を行っていましたが、ここ数年は神 明神社の氏子が執り行っています。



地 蔵(年代不詳)

(地図番号(13))

蓮光寺の石仏(1)

馬入橋のたもとにある蓮光寺は高野山真言宗の寺院です。 立派な山門は、高麗門様式で高野山総本山金剛峯寺東京別院 から拝領移築されています。

持ち上げ地蔵(抱き地蔵) 高さ30cmの小さなお地蔵さま は「吉凶」の占いに用いられました。心の中で願いごとを念

じながら後ろから持ち上げ、「軽く感 じたときには願いが叶い、重く感じ ると叶わない」といわれています。

蓮光寺に移される前は、馬入の個 人宅で守り、信者が願かけに来ると、 この人が地蔵を持ち上げてうかがい を立てていたようです。

蓮弁部には「発願主 比丘妙運大徳 八萬四千體之内」と刻まれていま す。



持ち上げ地蔵(年代不詳

延命地蔵 本堂左奥の六地蔵の中央 に「衆生 延命尊」と刻まれた延命地 蔵です。頭光背付きの丸彫りの座像 で、右手に錫杖、左手に宝珠を持つ ています。 塔身右に、明治5年(1872)7 月24日の建立で、世話人に男性4人 正面には女性13人、左に男性3人の 名前です。ここで興味深いのは、女 性はすべて「○○○○母」と刻まれ ています。子どもを守って欲しいと いう願いが込められているようです。



延命地蔵(明治5年)

真福寺の石仏

蓮光寺の石仏(2)

(地図番号(14)(15))

真福寺は浄土真宗の寺院です。大永5年(1525)釈善秀が 開いたといわれ、本尊は阿弥陀如来です。

江戸時代に寺子屋が開かれ、現在の松原小学校の前身であ る馬入小学校創設の地でもあります。

遭難者供養塔 墓地最奥(西側)の 一角に高さ 141cm の供養塔が建立さ れています。正面には阿弥陀如来が 線刻してあり「南無阿弥陀仏 馬入川 馬入渡舩馬入橋遭難諸霊供養碑」と 建碑寄贈者の名前が刻んであります。

塔は無縁仏供養塔に囲まれるよう に建っています。記念銘はありませ んが、昭和33年(1958)に江戸城の用 石を使い建立したといわれています。



馬頭観音群 線路を背にした墓地の一角に馬頭観音の文字塔 が5基並んでいます。安政から昭和までが4基、年号不明が 1基です。昔、寺の近くに死馬や牛の骨を捨てた場所にあっ た供養塔といわれています。

最も古い安政5年(1858)に建てられた塔には「馬頭観世 音菩薩 世話人當所馬持中」と五人の氏名が刻まれています。

当時、馬は農耕よりも運搬用として大切に飼われていまし た。昭和6年(1931)に建てられた塔には「牛神・馬頭観音・ 豚神」と刻んであり馬と同じように牛と豚も供養されていた ことがわかります。



馬頭観音(左より 慶応元年、安政 5年、大正 10年他 2 基)